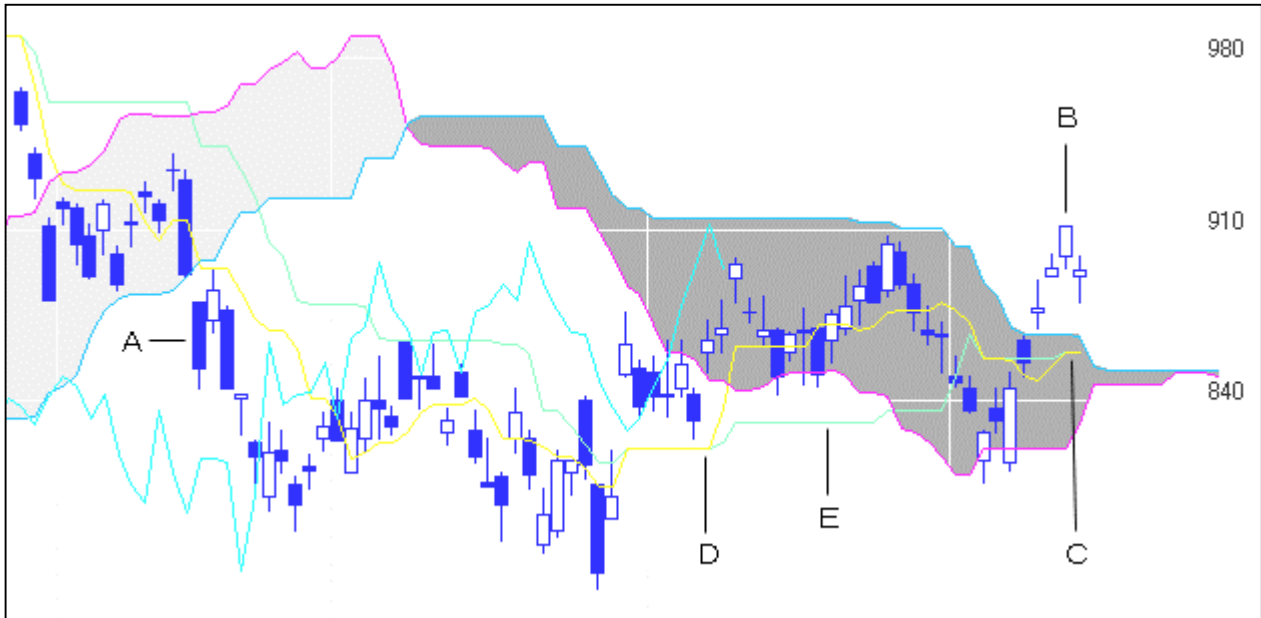


一目均衡表の簡単な見方

一目均衡表日足チャート



上のチャートのAの所は抵抗帯の雲を下に抜けており売りシグナルとされています。雲は支持帯（抵抗帯）と考えられていますので、下値支持帯を下回ったと判断します。再度雲を上を抜けるまでは、基本的には戻り売りの展開となります。Dの所で基準線と転換線がゴールデンクロスしていますので、買いシグナルとなります。又、転換線が基準線の上にあるうちは上昇トレンドとなりますので、基本的には押し目買いの展開となります。上のチャートの場合は株価が一旦基準線と転換線を下回り、雲の下限で下げ止ってから再度上に抜けてきた形となっていますが、基本的には最上位にある転換線、そして次にその下の基準線、最後に雲の下限が下値支持線となります。Bの所はAとは反対に転換線、基準線、抵抗帯の雲を上を抜けて来た事から基本的には買いシグナルとされています。再度雲を下に抜けるまでは、基本的には押し目買いの展開となります。勿論一目均衡表だけで投資判断を下す事はリスクが大きく、精度的にも疑問もありますが、その他のテクニカル指標と合わせて利用すれば大きな武器になる事は間違いありません。難しく考えずに、雲の上に株価が（ローソク足）あれば上昇トレンド、雲の下に株価が（ローソク足）あれば下降トレンド程度に活用すればよいと思います。出来るだけ多くのテクニカル分析の買いシグナル、売りシグナルを身につけていれば、投資判断の精度も高くなります。一目均衡表をそのうちの一つとお考え下さい。

次回からチャート塾は実戦での活用を重視し、毎週末に個別銘柄をピックアップして分析するスタイルに移りたいと考えていますので毎週月曜日更新に変更させていただきます。